

特集：「各部会周年行事報告」

数学科創設50周年記念 CSTホールを神田神輿がワッショイ！ワッショイ！

篠沢 達也

数学会 会長

(数学科：S44年卒)

平成21年2月21日（土）の午後、数学科50周年記念式典を理工学部1号館のCSTホールで開催した。昭和34年に数学科が創設されて50年が経った。約5千人の卒業生を輩出している。300名を超える人が参加し素晴らしい式典となった。既にリタイアした人もいるが現役の企業人や教員などの同窓生200名と招待者、教職員、学生が120名である。式典は午後2時から物故者への黙禱に始まり、本橋主任教授の挨拶、滝戸理工学部長から理工学の基礎である数学科の更なる発展を目指せという励ましの言葉をいただき、馬場校友会長から校友の結束と大学支援をしようという温かいメッセージをいただいた。続いて記念誌の紹介があった。その後、今回のメインイベントである神田神輿の渡御が始まった。理工学部は神田駿河台に聳え立っており、神田といえば天下祭りの神田明神様の神輿である。数学科を担ぎ上げ、理工学部を担ぎ上げ、日本大学を担ぎ上げる故事にならい神輿が登場した。

田畑秀二さん（18回生）の拍子木で神輿が担がれ、一気に盛り上がった。トビの頭の木遣りを先頭に、入り口から舞台までの間を、女子学生が前、男子学生が後ろを30名で担ぎ、神輿がお囃子に合わせて練り歩く。見る者も熱くなる瞬間である。舞台からの戻りは、感極まって本橋先生、永坂先生や佐々木事務局長も担ぎ手に入り一層の盛り上がりを見せた。

式典の後は、2階の3教室を使い懇親会を開いた。内藤実行委員長の開会の挨拶、昨年末文部科学省からナイスステップな研究者に選ばれた河野典子先生が教員代表として挨拶した。続いて鏡開きを行い、乾杯は今回最年長の永坂秀子先生に行っていただき歓談が始まった。懇親会場は各回生の集まり、先生を囲んだ集まり、学生の集まりなど話に花が咲き、話題が尽きない状態になり、3時間を越える会はあっという間に閉会となった。帰りには今回の特製栞と記念誌、バラの花（生物資源科学部産）を持って気持ちよく帰った人も多かった。皆さんお疲れ様でした。

